

<教科に関する調査>

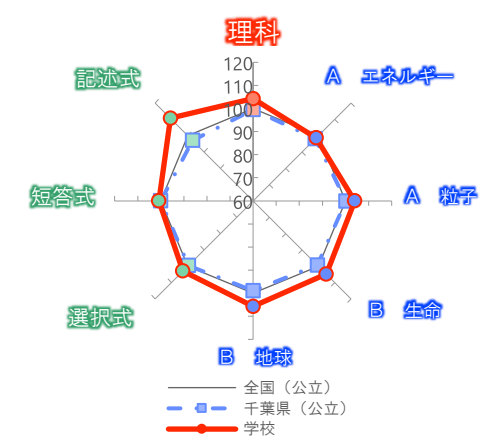
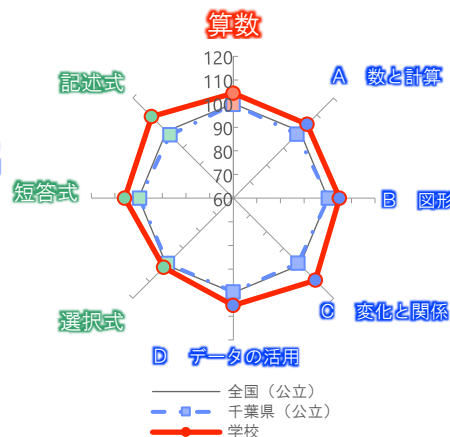
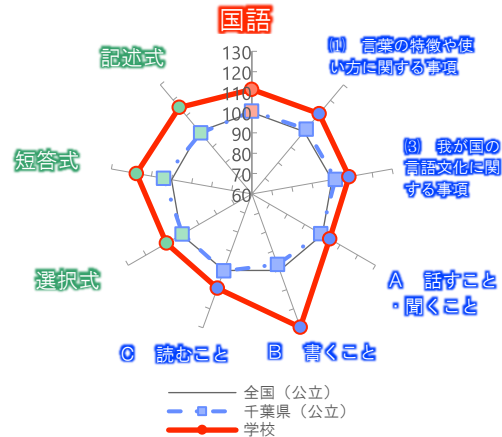
| 【国語】 | | 設問数 | 正答率 | 相対値 |
|-----------|-----------------------------------|------------------|-------|-------|
| 全体 | 国語 | 14 | 73 | 111.3 |
| | | | 66 | 100.6 |
| | | | 65.6 | — |
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項 | 5 | 76.9 | 111.4 |
| | | | 70.1 | 101.6 |
| | | | 69.0 | — |
| | (2) 情報の扱い方に 関する事項 | 0 | — | — |
| | | | — | — |
| | | | — | — |
| | (3) 我が国の 言語文化に 関する事項 | 1 | 84.5 | 108.5 |
| | | | 79.2 | 101.7 |
| | | | 77.9 | — |
| | 思考力、 判断力、 表現力等 | A 話すこと と・聞くこと | 2 | 69.0 |
| 65.7 | | | | 99.2 |
| 66.2 | | | | — |
| B 書くこと | | 2 | 62.9 | 129.7 |
| | | | 47.0 | 96.9 |
| | | | 48.5 | — |
| C 読むこと | | 4 | 72.8 | 109.3 |
| | | | 66.8 | 100.3 |
| | | | 66.6 | — |
| 問題形式 | 選択式 | 8 | 77.8 | 108.4 |
| | | | 71.4 | 99.4 |
| | | | 71.8 | — |
| | 短答式 | 3 | 74.7 | 117.5 |
| | | | 66.1 | 103.9 |
| | | | 63.6 | — |
| 記述式 | 3 | 59.2 | 115.4 | |
| | | 50.8 | 99.0 | |
| | | 51.3 | — | |

| 【算数】 | | 設問数 | 正答率 | 相対値 |
|---------------|---------|------|-------|-------|
| 全体 | 算数 | 16 | 66 | 104.4 |
| | | | 63 | 99.7 |
| | | | 63.2 | — |
| 学習指導要領の 領域 | A 数と計算 | 6 | 72.7 | 104.2 |
| | | | 68.6 | 98.3 |
| | | | 69.8 | — |
| | B 図形 | 4 | 67.2 | 105.0 |
| | | | 64.2 | 100.3 |
| | | | 64.0 | — |
| | C 測定 | 0 | — | — |
| | | | — | — |
| | | | — | — |
| | C 変化と関係 | 4 | 56.0 | 109.2 |
| 50.7 | | | 98.8 | |
| 51.3 | | | — | |
| D データの活用 | 3 | 72.4 | 105.4 | |
| | | 68.5 | 99.7 | |
| | | 68.7 | — | |
| 問題形式 | 選択式 | 6 | 52.6 | 101.5 |
| | | | 51.4 | 99.2 |
| | | | 51.8 | — |
| | 短答式 | 6 | 81.0 | 105.9 |
| | | | 76.2 | 99.6 |
| | | | 76.5 | — |
| 記述式 | 4 | 65.5 | 108.8 | |
| | | 58.9 | 97.8 | |
| | | 60.2 | — | |

1 段目：学校 2 段目：千葉県（公立） 3 段目：全国（公立）

| 【理科】 | | 設問数 | 正答率 | 相対値 |
|------------------|---------|------|-------|-------|
| 全体 | 理科 | 17 | 66 | 104.3 |
| | | | 63 | 99.5 |
| | | | 63.3 | — |
| 学習指導要領の 区分・領域 | A エネルギー | 4 | 50.9 | 98.6 |
| | | | 50.6 | 98.1 |
| | | | 51.6 | — |
| | A 粒子 | 5 | 62.8 | 104.0 |
| | | | 60.5 | 100.2 |
| | | | 60.4 | — |
| | B 生命 | 5 | 78.6 | 104.8 |
| | | | 74.5 | 99.3 |
| | | | 75.0 | — |
| | B 地球 | 5 | 68.3 | 105.7 |
| 63.9 | | | 98.9 | |
| 64.6 | | | — | |
| 問題形式 | 選択式 | 11 | 68.8 | 103.0 |
| | | | 66.5 | 99.6 |
| | | | 66.8 | — |
| | 短答式 | 3 | 66.7 | 100.8 |
| | | | 66.2 | 100.0 |
| | | | 66.2 | — |
| 記述式 | 3 | 52.3 | 110.6 | |
| | | 45.9 | 97.0 | |
| | | 47.3 | — | |

※教科レーダーチャートは、各区分の全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値を示したものである。



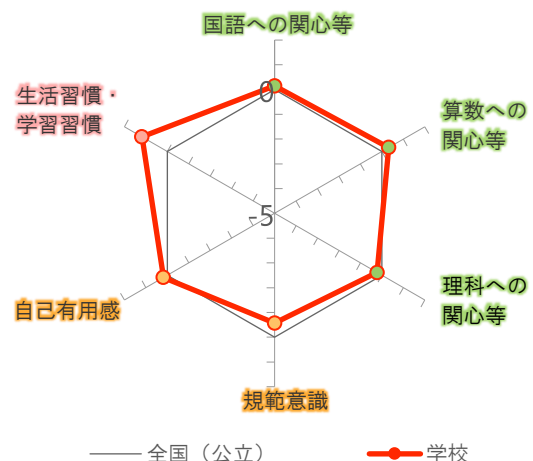
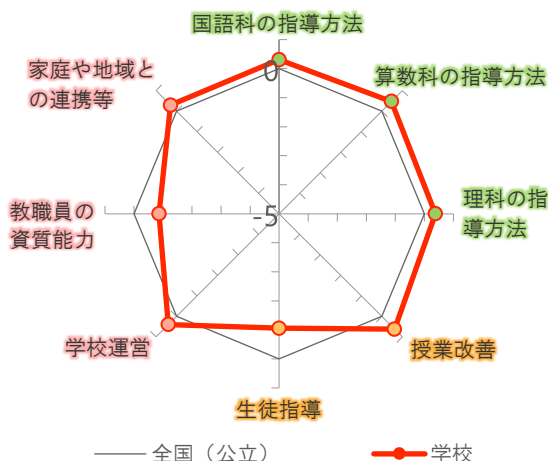
<学校質問紙調査>

| | 国語指導 | 算数指導 | 理科指導 | 授業改善 | 生徒指導 | 学校運営 | 資質向上 | 家地連携 |
|--------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|
| パラメータ値 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 1.75 | 2.00 | 1.67 | 1.80 |
| スコアZ | 0.31 | 0.47 | 0.38 | 0.62 | -1.06 | 0.40 | -0.86 | 0.29 |

※質問紙レーダーチャートは、文部科学省の「『全国学力・学習状況調査結果チャート』の作成方法」に基づき、「調査結果に関する補足説明 全国学力・学習状況調査結果チャートについて」に示された全国平均値及び標準偏差を基に算出した値を示したものである。なお、「教科学力」については、上記教科に関する調査と重複するため省略してある。

<生徒質問紙調査>

| | 国語関心 | 算数関心 | 理科関心 | 規範意識 | 自己有用 | 生活学習 |
|--------|------|------|-------|-------|------|------|
| パラメータ値 | 3.31 | 3.42 | 3.29 | 3.54 | 3.30 | 3.32 |
| スコアZ | 0.15 | 0.32 | -0.22 | -0.57 | 0.18 | 1.18 |



＜教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析＞

| | | |
|--|---|--|
| <p>国語の調査結果にみられる特徴と現状</p> <p>国語では「書くこと」や以前からの課題であった「記述式」の問題について全国平均より大幅に高くなっていた。これは子どもたちが自分の力でじっくりと考え、その考えを友達と比較・検討することで新たな学びを見いだしていることやまとめたことを掲示物やプレゼンテーション形式等で表現することで、学んだ内容をより自分のもののできたためと考える。その他の国語的分野でも全国平均より高い正答率となっており、国語学習が身につけていることがわかった。</p> | <p>算数の調査結果にみられる特徴と現状</p> <p>算数では全領域に渡り学習内容をよく理解している。「データの活用」の領域で、表の意味を理解して全体と部分の關係に着目して数を求めることができていた。「変化と活用」の領域では正答率は全国平均以上ではあるものの、伴って変わる二つの數量が比例の關係にある事を用いて、未知の數量の求め方と答えを記述するのに課題がある。また、問題形式の視点で見た場合、算数的事象を論理的に説明することができていた。</p> | <p>理科の調査結果にみられる特徴と現状</p> <p>理科では「地球」の領域が特に正答率が高く、天気と気温の変化を観察した結果を分析して解釈し、問題に正対した結論を導き出すことができていた。また、「エネルギー」の領域では光の性質についての理解が不十分で、実験結果から出た結論から根拠を導き出す事に苦しさがあることがわかった。全体的に見ると、理科的事象を日常生活と結びつけて理解したり表現したりすることに課題が見られる。</p> |
|--|---|--|

＜質問紙調査の結果にみられる特徴と現状分析＞

| | |
|---|---|
| <p>学校質問紙調査の結果にみられる特徴と現状</p> <p>国語・算数・理科などは授業前の価値分析を行い、単元でどのような手段で学習内容を理解させていくのかを明確にした指導を行っているために理解が深まっていると考えられる。また、ICTを使った授業展開や外部講師や企業・地域の方などから協力をいただくことで、個別最適な学習や体験的・協働的な学習が進められていることも成果としてあげられる。</p> <p>本校は学級担任の経験5年以下の教員が学級の半数おり、若年層教員が多いことで、生徒指導の機能を生かしながらの授業が行えていないことがわかる。</p> | <p>児童質問紙調査の結果にみられる特徴と現状</p> <p>生活意識に関しては、毎日朝食をきちんと摂り、同じ時刻に寝起きできている児童が9割以上となっており、規則正しい生活を送っていることがわかった。また、「自分には良いところがあると感じている」ことや「先生が自分を認めてくれていると思う」・「自分でやると決めたことはやり遂げようとしている」ことに肯定的な回答をした児童が非常に多いことから自己肯定感や自己有用感を高く持ち、困難なことにも粘り強く挑戦しようとする力がある事もわかった。</p> |
|---|---|

＜改善策・検証方法＞

| | | |
|--|--|--|
| <p>改善目標</p> <p>①個別最適な学習・協働的な学習の実践 ②教員の資質向上を図る ③生徒指導の機能を生かした授業を展開する</p> | <p>改善方策（どのような取組をいつ・どの程度行うか）</p> <p>ICTを使った授業を単元のどこでどのような形で使うのかを検討し、年間指導計画に追記していく。また、家庭学習もドリルとタブレットをバランス良く取り入れ、児童に前学年までの内容を復習させたい時にすぐにできる体制をとっていく。</p> <p>協働的な学びは学習のまとめや調べ学習の分野で積極的に行うように指導計画に追記していく。そして、各学年の学力分析においても協働的な学びをどのような形で向上させていくのかを入れるようにする。</p> <p>学期内に行った授業について単元が終わった段階で学年会等で授業改善の視点からより児童の理解が深まる方法がなかったかを出すようにする。また、校内若年層研修で生徒指導の機能を生かした授業について扱う。校内ベテラン教員を講師としてどのような実践ができるかを授業を見たり演習を入れた研修をすることで実践につなげていく。</p> | <p>検証方法（いつ・どのように検証・評価するか）</p> <p>学期の中間と学期末に学年ごとの学力分析を行うことで実践している授業改善が学習内容の理解につながっているのかを検証する。また、授業では個で考える時間を確保することで筋道を立てながら考える習慣をつけさせる。さらに、まとめたことを掲示物やプレゼンテーション等で表現する機会を多く確保するようにしていく。</p> <p>前学年までの学習内容は、宿題プリントや朝学習、タブレット学習を通して系統的に学習が進められるような体制をとっていく。</p> <p>授業方法については若年層研修担当と連携して研修の中に生徒指導の機能を入れた授業展開の研修を入れることや、教科主任の授業を参観する際にもその視点を入れた参観をするように促していく。</p> |
|--|--|--|

備考